

真田地域自治センター

令和8年度 重点目標

- 1 多彩な地域資源を生かした魅力発信
- 2 地域の特性を生かした農業の振興
- 3 市民が主役 「心豊かな 協働のまちづくり」の推進
- 4 資源循環型社会の構築と安全・安心な地域づくりの推進

重点目標		多彩な地域資源を生かした魅力発信		部局名	真田地域自治センター		優先順位	1 位
総合計画における位置付け		第3編 産業・経済 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 魅力ある観光地づくり		市長公約における位置付け	挑戦1 上田に稼ぐ力を取り戻す 菅平のスポーツ資源を“稼ぐ力”に			
第五次上田市行政改革大綱における位置付け				(3) 持続可能な財政運営に向けた改革 ウ 公共施設マネジメントの推進				
現況・課題	真田地域は、冬季はスキー・スノーボード、夏季はラグビー・サッカー・陸上競技等、準高地の自然環境を活かした「スポーツ合宿の聖地」として発展した菅平高原と、真田氏発祥の地という2大ブランドを有しています。菅平の合宿等の受入れは、概ねコロナ禍前に戻ったが、物価高騰等の影響で菅平高原の観光産業は依然として厳しい経営状況にあることから引き続き、観光協会や旅館組合、そしてサニア・アリーナのネーミングライツパートナーである㈱ドーム、今年度着任した地域おこし協力隊等と連携しながら、観光需要の回復と誘客促進に向けた環境整備を図り広くPRしていくとともに、サニア・アリーナ両施設の更なる活用と老朽化が進んでいる施設整備等も進めて行く必要があります。さらに、「真田氏発祥の地」として、地域住民の機運を高める取組も必要です。							
目的・効果	「菅平高原」のブランドイメージをさらに高め、世界に通用する自然豊かな国際スポーツリゾート地としての地位を確立し、地域の産業振興及び活性化による効果が全市におよぶことが期待されます。 また、菅平高原観光産業の幕開けから50年を記念して始まったスイス・ダボス町との姉妹都市の関係を地域資源として捉え、菅平観光100年、姉妹都市提携50周年を機として時代背景に合った新たな交流のあり方を提案していきます。			該当するSDGsの目標				
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○「スポーツ合宿の聖地 菅平高原」の魅力アップに向けた施策の推進 (1) ネーミングライツパートナーとの協働による各種施策の推進（アンダーアーマー菅平サニアパーク・アンダーアーマー菅平アリーナ） (2) ホームページ・SNSを活用したPR (3) ラグビー合宿の聖地を活かした連携とPR (4) 地元関係団体等と連携し、菅平高原の活性化や観光振興、課題解決に向けた取組を実施	(1) 年度内 (2) 年度内 (3) 年度内 (4) 年度内	(1) ㈱ドームと地元観光協会など各種団体等との連携を強化し、事業を推進 (2) 利用促進に向けた情報発信 (3) 東大阪市花園ラグビー場との連携による菅平高原のPR活動の推進 (4) 菅平の現状把握や地域住民との関係づくり等、地域おこし協力隊の活動を支援					
②	○菅平地区観光施設の安全性と快適性、長寿命化に向けた改修整備 (1) 2028年国民スポーツ大会開催に向けて安全性・快適性の向上を目指したアンダーアーマー菅平サニアパークの施設整備	(1) 年度内	(1) 無線LAN環境構築工事					
③	○菅平高原自然館の今後の方針策定 (1) 今後の方向性及び展示品・所蔵品の利活用の検討	(1) 年度内	(1) 関係団体等との協議					
④	○地域特性を生かしたイベントの開催 (1) 真田ブランドを生かした祭りの開催 (2) 菅平高原のフィールドを生かしたイベントの開催	(1) 8月 (2) 年度内	(1) 第42回真田まつりの開催・鉄砲隊等の出演 (2) ササ刈りイベントの開催					
⑤	○ダボスとの姉妹都市交流の推進 (1) 姉妹都市提携50周年記念事業の実施	(1) 年度内	(1) 記念事業の実施（11/7）及び冠事業開催支援					
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

重点目標		地域の特性を生かした農業の振興			部局名	真田地域自治センター		優先順位	2 位
総合計画における位置付け		第3編 産業・経済 第1章 次代へつなぐ農林水産豪の振興 第2節 農業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進			市長公約における位置付け	挑戦1 上田に稼ぐ力を取り戻す 直売所を“食の観光拠点”へ			
第五次上田市行財政改革大綱における位置付け									
現況・課題	地域内の農業者の高齢化や後継者不足などにより、遊休農地や貸出希望農地が増加しており、新たな担い手の確保・育成、遊休農地の発生防止・解消に向けた取り組みが必要です。真田地域の農業や特産果樹・季節の農産物等の魅力発信により、都市農村交流や地域の活性化を図る取り組みを進めていく必要があります。								
目的・効果	関係機関と連携した新規就農者への支援により新たな担い手の確保・育成つなげるとともに、特産果樹の普及促進や農地中間管理事業を活用し担い手への農地集積を進め、遊休農地の発生防止・解消を図ります。				該当するSDGsの目標	2 飢餓をゼロに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 15 陸の豊かさも守ろう			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○ 多様な担い手の確保・育成 (1) 新規就農者への支援 (2) 農福連携の推進	(1) 年度内 (2) 年度内	(1) 関係機関と連携した認定新規就農者（4人）への支援 (2) 収穫作業委託（2件）						
②	○ 遊休荒廃農地対策 (1) 遊休農地の発生防止及び解消に向けた取組の推進 (2) 特産果樹の新品種の普及促進	(1) 年度内 (2) 年度内	(1) 貸出希望農地の担い手への農地集積（3,000㎡） (2) ヘーゼルナッツの苗木斡旋（100本）及び栽培技術等の研究						
③	○ 地域農業の魅力発信 (1) ゆきむら夢工房からの情報発信 (2) 賑わいのある新そばまつりの開催	(1) 通年 (2) 11月	(1) 夢工房だより・ホームページやメール配信を活用した情報発信 (2) 近隣店舗等と連携して開催・来場者数：1,500人						
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題					

重点目標		市民が主役「心豊かな 協働のまちづくり」の推進		部局名	真田地域自治センター		優先順位	3 位
総合計画における 位置付け		第1編 自治・協働・行政 第1章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の現実 第1節 自治基本条例に基づくまちづくりの推進		市長公約における位置 付け	挑戦6 誰ひとり取り残さない上田へ 地域の全人生に幸せを			
第五次上田市行財政改革大綱における位置付け				(2) スマートシティの実現を目指す改革 ウ 地域のデジタル化に向けた取組				
現況・ 課題		地域の人口減少やコロナ禍による人と人の交流が絶たれ、地域内のコミュニケーションの喪失が地域社会の存続を危ぶませている中、地域の情報伝達手段として利用されてきた真田有線放送電話事業が令和4年度末にて廃止されました。地域内の情報伝達に関する住民不安の声に対して、地域協議会、自治会長会議や住民懇談の中で、自治会単位で地域の実情に合った情報伝達手段の構築と合わせてデジタル化の推進として「キクもん」の導入と普及を図ってきました。 また、住民自治組織「真田の郷まちづくり推進会議」が取り組む住民主体の地域づくりへの積極的な支援により、市民と行政がそれぞれの立場で力を発揮する「参加と協働」によるまちづくりを進めていく必要があります。						
目的・ 効果		地域の情報取得手段として、今後も進む地域社会のデジタル化の推進を念頭に情報格差のある世代に対するタブレット端末による情報伝達支援事業、併せて自治会長を中心とした自治会業務のデジタル化による軽減と、地域住民がデジタル社会へ主体的に参画できる基盤整備事業を進めます。また、地域の個性や特性が活かされた地域力が発揮されるまちづくりと、「地域づくり委員会」など今日まで培ってきた地域の取組を基に市民と行政が共に協働して「安心・安全なまちづくり」の実現を目指します。			該当する SDGsの目標	11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 地域と人がつながるデジタルネットワーク (1) 地域内のデジタル化推進事業 ・ 地域内デジタル化事業の支援 ・ はれラジ連携による地域への情報配信 ・ デジタル活用による定期送達書類軽減化推進 (2) 関係課等のデジタル活用推進 ・ 関係課等との活用方針調整 ・ 公民館スマホ講習事業との連携 ・ 自治会からの提出文書等のデジタル化推進		(1) 年度内 (2) 年度内	(1) ・ 自治会等での説明(随時) ・ はれラジとの番組連携(毎月) ・ 電子定期送達配信(12回) (2) ・ 本庁関係課との協議(2回) ・ 事業連携(2回) ・ 地域づくり委員会要望書、会議出欠報告(随時)				
②	○ 地域づくり委員会との協働によるまちづくり (1) 地域へのまちづくりに活用できる情報提供 (2) 地域課題の把握と関係課との情報共有		(1) 8月まで (2) 通年	(1) 地域づくり委員会での情報提供 (2) 関係課等へ課題の情報提供と対応依頼				
③	○ 住民自治組織「真田の郷まちづくり推進会議」への支援 (1) 地域住民への活動周知 (2) 地域づくり委員会から把握した課題等の共有 (3) 住民自治組織参画団体等増加に向けた支援		(1) 通年 (2) 通年 (3) 通年	(1) ラジオ等での広報の支援、会報「さなぎ」配布 (2) 地域課題の情報共有(随時) (3) 住民自治組織との会議(2回)				
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点				○取組による効果・残された課題			

重点目標		資源循環型社会の構築と安全・安心な地域づくりの推進			部局名	真田地域自治センター		優先順位	4 位
総合計画における位置付け		第2編 自然・生活環境 第1章 豊かな環境を未来につなぐ 第1節 豊かな自然環境の保全と活用	第2編 自然・生活環境 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第6節 犯罪や交通事故のないまちづくりと消費者被害防止の推進	市長公約における位置付け	挑戦 4 上田の水を守り抜く、挑戦 6 誰ひとり取り残さない上田へ 上田の資産である「豊かな水源」を守り抜く 楽しさとつながりで支える地域コミュニティ				
第五次上田市行政改革大綱における位置付け			(1) 多様な主体との連携・協働を推進する改革 イ 市民との情報共有の充実						
現況・課題	○環境負荷を低減する循環型社会形成のために家庭や事業所における取組として再利用によるごみの発生抑制を優先したライフスタイルへの転換やプラスチックごみ等の適正な分別による再資源化の推進などが求められています。 ○上田市の上流に位置する菅平や真田地域内の神川流域では、年間10件以上もの漏油が発生しており、豊かな水源環境の保全が求められています。 ○特殊詐欺被害件数、被害額が拡大しているほか、高齢者以外の被害者も増加しており社会問題となっています。 ○地域住民と学校や各種活動団体、国・県等との横のつながりが希薄化しています。 ○交通安全を担う組織再編が今年度あるため、市民等に影響がないように新体制への移行を図り、地域の安全・安心な生活環境を守ります。				該当するSDGsの目標				
目的・効果	○「第三次上田市総合計画（前期基本計画）第2編 第1章 自然・生活環境、豊かな環境を未来につなぐ」に掲げる施策等を推進し、真田地域における持続可能な循環型社会の形成及び恵まれた自然との共生、良好な自然環境の創出を目指します。 ○「第三次上田市総合計画（前期基本計画）第2編 第2章 良好、快適な生活環境の形成」に掲げる施策等を推進し、犯罪や交通事故のないまちづくりを目指します。真田地域消費生活展を通じて、住民をはじめ小中学校及び地域団体、国県等との連携を図り、地域課題の解決を目指します。								
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）				
①	ごみの減量・再資源化と水質汚濁防止啓発 (1) ごみの減量・再資源化に関する啓発 (2) 漏油に係る指導及び注意喚起と体制見直し	(1) 通年 (2) 通年	(1) 広報、地域づくり委員会他キクもん等デジタル媒体による啓発 (2) 広報、デジタル媒体等による周知啓発、消防や県等との連携						
②	安全・安心な地域づくりの推進 (1) 地域住民や各団体組織との連携・協働 (2) 交通安全及び防犯意識の向上推進	(1) 通年 (2) 通年	(1) 真田地域消費生活展等広報活動及び関係団体との連携 (2) 交通安全運動(春・夏・秋)、防犯パトロール実施						
③	持続可能な地域にしてい土台となる 真田地域住民の健康づくり (1) 各団体や組織への健康に関する知識等の啓発	(1) 通年	(1) まちづくり推進会議とのコラボ及び消費生活展等での啓発						
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点				○取組による効果・残された課題				